令和8年産「くるめの特別栽培米(夢つくし・元気つくし)」づくり基準

望まれる「福岡の米」づくりの推進

1.種子更新率100%
2.健全な土づくり　①堆きゅう肥・稲・麦わらの投入　②土壌改良資材の投入　③深耕
3.安心な米づくり　①減化学合成農薬栽培　②減化学肥料栽培(完熟堆肥・有機入り肥料)
4.おいしい米づくり　①生育に応じた施肥　②適期収穫　③適正な乾燥・調製
5.気象変動に左右されない米づくり(基本技術の励行)
土づくり・適期移植・水管理の徹底・中干しの徹底・適期落水

農薬の使用に当たっては、以下のことに気を付けてください。
①農薬の使用基準を守ってください。
②防除日誌を記帳して防除記録を残してください。
③農薬を散布するときは、風の有無を確認し、散布機圧力を調整するなど周辺の作物に農薬が飛散しないよう十分注意してください。

		主な作業		
		生育	特栽夢つくし	特栽元気つくし
5月	中	育苗期	播種(催芽籾150g/箱)	
	下		土づくり、麦わらのすき込み	播種(催芽籾150g/箱) 土づくり、麦わらのすき込み
6月	上		基肥	
	中	活着期	耕起、代かき 箱施薬剤 移植 浅水管理 除草剤散布	基肥
	下		浅水管理	耕起、代かき 箱施薬剤、移植 浅水管理 除草剤散布
7月	上	有効分げつ期	間断かん水	浅水管理 間断かん水
	中	無効分げつ期	中干し開始 (茎数18本/株より)	中干し開始 (茎数18本/株より)
	下	幼穂形成期	穂肥 間断かん水 畦草刈り(出穂14日前まで)	間断かん水 穂肥 畦草刈り(出穂14日前まで)
8月	上	出穂期	出穂 湛水管理	出穂 湛水管理
	中		間断かん水	間断かん水
	下	登熟期	落水(収穫7日前)	落水(収穫7日前)
9月	上	成熟期	収穫	収穫
	中			
	下			
10月	上			
	中			
	下			
年内			耕起、稲わらすき込み	耕起、稲わらすき込み

品種特性表

※出穂期・成熟期は6月20日移植のデータ。その他は、品種特性表に基づく。

熟期	品種名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	耐倒伏性	穂発芽性	外観品質	食味	10a当り玄米量 kg/10a	耐病性 いもち	耐病性 白葉枯
極早生	夢つくし	8·8	9·12	76	17.3	372	中	難	上の下	上の上	520	弱	やや弱
早生	元気つくし	8·19	9·26	84	20.1	377	やや弱	難	上の上	上の上	568	弱	中

施肥基準

1.基本設計　(10a当り施用量)

堆きゅう肥	土壌改良資材	基肥	施用量	穂肥	施用量
土力目標1トン	ミネラルG 160kg 又は けい酸加里 40kg	新スーパーユーキくん1号 10-6-6 (有機51%)	夢つくし 40kg 元気つくし 50kg	スーパーユーキくん3号 10-3-8 (有機51%)	25kg

2.緩効性肥料による1回全量施肥　(10a当り施用量)

堆きゅう肥	土壌改良資材	基肥	施用量
土力目標1トン	ミネラルG 160kg 又は けい酸加里 40kg	有機エムコート355 13-5-5 (有機50%) 100日タイプ	夢つくし45kg 元気つくし55kg

施肥上の注意

堆肥や土壌改良資材の施用、深耕などの土づくりを行いましょう。

農薬使用基準

※野菜等、周辺作物に飛散すると薬害を生じるほか、残留農薬により出荷できなくなるため、十分注意して防除を行う。

1.病害虫防除(箱施薬)

農薬名	化学合成農薬	使用量	使用時期	対象病害虫
ブーンゼクテラ箱粒剤	3	1kg/10a (50~100g/箱)	は種時(覆土前)~移植当日	いもち病・白葉枯病・コブノメイガ・ウンカ類

2.雑草防除

時期	農薬名		化学合成農薬	10a当り使用量	使用時期(移植後日数)	ノビエ
初・中期	オイカゼZ	1キロ粒剤	2	1kg	移植時~12	3.0葉期まで
		ジャンボ	2	400g	5~12	3.0葉期まで
	プライオリティ	1キロ粒剤	2	1kg	移植時~14	3.5葉期まで
		ジャンボ	2	250g	移植直後~14	3.5葉期まで
	ゼータプラス	1キロ粒剤	2	1kg	移植時~16	4.0葉期まで
		ジャンボ	2	200g	3~16	4.0葉期まで

※除草剤使用後は最低4日間は湛水状態を保ち散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

【薬害が出やすい状態】



イラスト出典:

3.本田病害虫防除
※農薬によるミツバチへの危害防止のため稲の開花期に農薬の使用は避ける。
※病害虫防除基準は箱施薬剤の使用を前提としているため、箱施薬剤は必ず規定量を使用すること。また、トビイロウンカ対策として誘に記載している箱施薬剤が有効です。

ヘリ防除

使用時期	農薬名	化学合成農薬	使用液量(10a)	希釈倍数	対象病害虫
出穂直前	オーケストラフロアブル	1	800mℓ	8倍	ウンカ類幼虫
	スタークル液剤10	1	800mℓ	8倍	ウンカ類 カメムシ類
	ダブルカットバリダフロアブル	1	800mℓ	8倍	いもち病 紋枯病
乳熟期	スタークル液剤10	1	800mℓ	8倍	ウンカ類 カメムシ類

※カメムシ対策として出穂14日前までに畦草刈りを実施する。
※ジャンボタニシ対策にはスクミノンが使用できます。
※ダブルカットバリダフロアブルに含まれるカスガマイシン、バリダマイシンは化学合成農薬のカウントから除外されますので1成分となります。
※本田防除は病害虫の発生状況に応じて実施する。

収穫・乾燥調製上の注意点

・適期収穫:籾水分 夢つくし 24~28%　元気つくし 22~28%
・早期落水は絶対にしない
・乾燥玄米は水分14~15%

記載農薬は、令和7年12月の登録内容に基づき記載しています。農薬の登録は、随時変更されていますので、農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。

久留米市農業振興協議会

JAくるめ本店営農事業部 33−3671
東部営農センター 45−0345
西部営農センター 26−4111
久留米普及指導センター 47−5101
久留米市生産流通課 30−9164

JAくるめ ホームページ http://www.ja-kurume.or.jp

R.8.1作成